

## 最優秀賞

## 家のちかくにさぼうダムができた

犬山市立池野小学校 2年 佐々木 信弦

ぼくは、なつ休みに家の前の山につくっているさぼうダムを見にいきました。大門さわさぼうダムと言います。きょねんから山の木を切ったり、トラックがとおるみちを作ったりこうじをしていました。山の方へのぼっていくとちゅうでダムをつくるかんばんがあつてどんだんダムができるところがかいてありました。

山をのぼるとすぐにダムが見えました。こうじ中だからちかくまでいけないけど、水もないし、ほかのところで見たダムよりも小さいなと思いました。ダムとダムのあいだにすきまがあつてだいじょうぶかなと思いました。

家にかえってからさぼうダムをパソコンでしらべました。さぼうダムのやく目は岩や土、木などがながされていくばあい、土しゃをだいいダムとだいい二ダムでせき止めるやくわりがあります。もしさぼうダムがないばあいがけがふくらんでおもすぎて、大雨がふつたら土しゃくずれがおこります。

犬山市のハザードマップを見ました。図書かんで土しゃくずれの本のしゃしんも見ました。ハザードマップを見たら自分の家が黄色のわくのうちがわにあつて、けいかいちいきだそうです。それを見て自分の家がきけんだと分かりました。土しゃくずれがおきたら、ぼくがだいじにしている空手のおびも家も土にうまってしまうかもしれません。そうならかなしいです。しんでしまうかもしれません。

さぼうダムができて土がぜんぶせきとめられなかったらどうなるんだろうと思いました。

ぼくはぼうさいバックをもっています。そのなかに水やかいちゅうでんとうやいろいろなひつじゅひんがいれてあります。にげるときには、ぼうさいバックとぼくがだいじにそだてているおばけえびもつれていきたいです。土しゃくずれがおきなればいと思うけど、土しゃくずれがあつたとき、さぼうダムがまもってくれると思います。そうじゃなかったらぼうさいバックとおばけえびをもってにげなければいけないと思いました。

## 優秀賞

## 土しゃさいがいを知って

稲沢市立大塚小学校 2年 佐藤 瑠音

わたしのおじいちゃんとおばあちゃんがすむぎふけんえなしに、れいわ二年七月八日、大雨とくべつけいほうが出ました。わたしは、ともしんぱいでおかあさんといっしょにおばあちゃんになんかいもでん話をかけました。おまあちゃんが、「とてもすごい雨で、お家のうらの山がくずれてこないかともしんぱい。」と言っていました。山はくずれてこなかったのよかったですけれど、げんかんに雨水がたくさん入ってきて、とてもこわかったと言っていました。わたしがすんでいるところは、近くに山がないので、雨がたくさんふって山がくずれるとどういふことがおこるのかと思い、土しゃさいがいについてしらべてみることにしました。

大雨などがげんいんでしゃめんがくずれて土や石が水といっしょにしゃめんやたにを下ってくることを土しゃさいがいといいます。土や石が水とまじってどろどろになり、お家の中まで入ってきたり、お家がくずれてしんでしまった人もいることを知り、とてもかなしい気持ちになりました。お家がくずれてしまうこともかなしいけれど、いのちが一ばん大切です。

じめんやがけにひびがわれたり、小石がバラバラとおちてきたりなど、土しゃさいがいにはおこる前にサインがあるとのこと。早目にひなんすること、そのためにはすぐひなんできるようにひじょう食などのじゅんびをしておくことが大切だと思いました。

また、山や山のまわりだけでなく、じゅうたくちにあるきゅうなしゃめんでも土しゃさいがいはおこります。土しゃさいがいをじぶんにかんけいのないことだと思わずに、みぢかにおこることだと思わなければいけないと思いました。

みんなが、あかるくたのしいまい日をすごせるようにいのちをまもる行どうが大切です。

## 優秀賞

## 自然災害のつながり

名古屋市立伝馬小学校 6年 河内 希来里

私は最近、線状降水帯という言葉がニュースなどでよく耳にします。線状降水帯とは、積乱雲が連続して発生し、帯のように連なり、長さ五十～三百キロメートル、幅二十～五十キロメートル程度の強い局所的な降雨をともなう雨域で、積乱雲が線状に次々と発生して同じ場所を通過または滞り続ける自然現象で極端な集中豪雨をもたらす災害を引き起こす原因となります。土砂災害もその中の一つです。線状降水帯は、近年、増加していて、線状降水帯が起こると一時間の雨量は平均の十ミリリットルを大きく上回る約七十ミリリットルになります。大雨が発生した区域では、土砂災害が起こりやすくなると言われていました。梅雨末期は、線状降水帯が発生しやすい環境となるそうです。

土砂災害は、大きく、土石流、地すべり、がけ崩れの三つに分類することができ、そのどれも雨が関係しています。大雨が地中にしんとうし、谷や山の地盤がゆるみ、斜面から崩れた土、石、砂などが水と混じり合って、谷底を一気に流れ出たり、ゆるい斜面にきれつが入り、地面が大きなかたまりのまま動いたりするなど、大きな被害をもたらす災害です。毎年たくさんの死者や行方不明者を出し、人の命を一しゅんにしてうばってしまうとても危険でおそろしいものです。ニュースなどで見る土石流の勢いは家や、田畑を押し流してしまうほどすさまじいもので、道路や線路などの交通網に被害をおよぼし、それによって、避難ができなくなったり、救助や、物資輸送に大きな支障が生じたりします。

線状降水帯は最近、予測できるようになりつつあるそうです。しかし、それによりどのぐらいの被害がどれぐらいの範囲で起こるのかを予測することは難しいかもしれません。でも、もし災害が起こったときになるべく大きな被害にあうことをさけるためにできることはあります。まず、自分の住んでいる地域のハザードマップを確認し、避難経路や避難所を決めておき、その情報を共有しておくことが大切だと思います。他にも、ニュースやラジオなどで、警戒レベルや、土砂災害の情報はあくしておくことも被害にあわないためには重要なことだと思います。自分が住んでいる地域で土砂災害が起きたときには、あらかじめ決めておいたことをもとに、状況に合わせて迷わず、あせらずに、落ちついて行動し安全に避難したいと思います。また、万が一避難できなかった場合に備えて救助を呼ぶ方法や、避難できていないことを知らせる方法を学んでおくことも大切だと感じました。

自然災害には大きなつながりがあります。私は今回、線状降水帯がもたらす大雨により土砂災害が起こる可能性が高くなるのではないかと思いますこの二つのつながりを調べてみました。でも、土砂災害が起こる原因は大雨だけではありません。私の住んでいる地域では、南海トラフ巨大地震による被害も想定されています。自然災害はいつ起こるか分かりません。でも、いつ起こったとしても命を守れるように準備し、行動することが大切だと感じました。